WE LOVE とよた

つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた

第８次
豊田市
総合計画

基本構想・後期実践計画

概　要　版

豊田市

「つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた」の実現をめざして

本市は、世界をリードするものづくり産業の中枢都市としての顔を持つ一方、市域のおよそ7割を森林が占め、四季折々に彩られる豊かな自然や農産物を実らせる田園が広がる恵み多き緑のまちとしての顔も併せ持っています。また、スポーツ、歴史、文化、芸術を始め、多様性、可能性を秘めた様々な地域資源を有しています。

本計画では、「つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた」を将来都市像として掲げており、超高齢社会の進展や産業構造の変化、新型コロナウイルス感染症による「新たな日常」など、前例の無い時代の転換点において、新型コロナウイルス感染症による危機を乗り越えるとともに、本市の持つ「強み」と新たに生じた「変化」を生かし、誰もが幸福感を感じながら自分らしく暮らせる「幸福寿命」を全うできるまちをめざしてまいります。

急激に変化する社会経済情勢により、本市を取り巻く情勢は厳しくなることが予想されますが、これまで市民の皆様と培ってきました共働を基に、市民力、地域力、企業力、行政力をより一層生かした市政経営により、活力と魅力のある持続可能なまちづくりを進めてまいります。

最後に、計画の策定に当たり、多くの貴重な御意見をいただいた皆様に心から感謝申し上げるとともに、引き続き市政に対する御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年3月

豊田市長　太田稔彦

目 次

つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた
第8次豊田市総合計画　概要版

第8次豊田市総合計画とは? …… P2
豊田市の特徴とは? …… P3
豊田市を取り巻く主な社会環境変化と課題 …… P4

基本構想

まちづくりの基本的な考え方 …… P7
将来都市像 …… P8
めざす姿 …… P10
将来人口 …… P11
計画の推進に当たって …… P11
土地利用構想 …… P12

後期実践計画

計画の構成と内容 …… P14

重点施策

重点施策（1）超高齢社会への適応 …… P16
重点施策（2）「ひと」と「しごと」が集まるミライへの投資 …… P20
重点施策（3）まちの課題解決力の強化 …… P24

基本施策

基本施策Ⅰ　子ども・子育て …… P28
基本施策Ⅱ　生涯学習 …… P29
基本施策Ⅲ　健康・福祉 …… P30
基本施策Ⅳ　安全・安心 …… P31
基本施策Ⅴ　産業・観光・交流 …… P32
基本施策Ⅵ　環境 …… P33
基本施策Ⅶ　都市整備 …… P34
基本施策Ⅷ　地域経営 …… P35
新型コロナウイルス感染症を克服した新しい社会の構築に向けて …… P36

第8次豊田市総合計画とは？

市民と行政が共に取り組むこれからのまちづくりの方向性を明らかにした最も基本となる計画です。

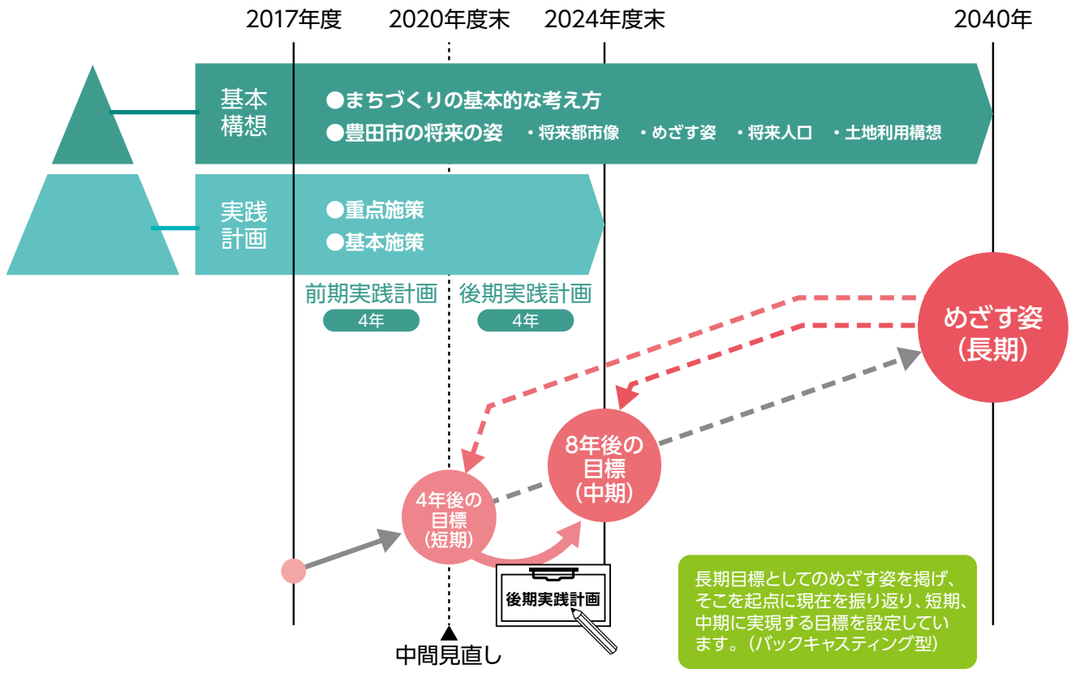
豊田市は、超高齢社会※1の進展、産業構造や財政状況の変化など、社会経済情勢の大きな転換点を迎えています。

また、気候変動や大規模自然災害、新型コロナウイルス感染症などの脅威にも直面しており、こうした状況の中、豊田市がよりよい未来のためにめざす目標とその実現に向けた取組をまとめたものが第8次豊田市総合計画です。

第8次豊田市総合計画の構成

2040年を展望し、普遍的なまちづくりの方向性を定めた「基本構想」と、それを実現するために前期4年（2017年度～2020年度）、後期4年（2021年度～2024年度）で進める具体的な取組を明らかにした「実践計画」の二層構造としています。

第8次豊田市総合計画の構成と目標設定



※1　超高齢社会：65歳以上の高齢者の占める割合が全人口の21%を超えた社会

豊田市の特徴とは？

（1）世界的な自動車産業の拠点として発展してきた都市

トヨタ自動車株式会社やグループ企業を中心とした自動車産業の生産拠点が集積し、自動車産業の世界的拠点として発展してきました。

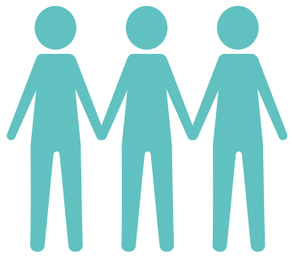
自動車産業を中心としたものづくりに関わる企業への就業率が高く、その企業文化は地域の生活にも浸透しています。一方で、人口動向や行財政事情が経済情勢の変化による影響を受けやすいという潜在的リスクも有しています。

（2）豊かな自然、多様な歴史・文化を持つ都市

豊田市は市町村合併を重ねて発展し、広大な市域に多様な地域が共存しています。また、工業だけでなく、農業も県内で有数の生産額を誇っています。

加えて、豊かな森林、矢作川などの水資源を始めとした自然や歴史・文化・スポーツなどの多様な地域資源を有しており、ラグビーワールドカップ2019™など、世界的なイベントも開催されています。

（3）多様で充実した担い手を有する40万人都市



住民が主体となって地域活動を展開する自治区が全市域に存在し、地域のつながりによる様々なまちづくり活動が行われています。

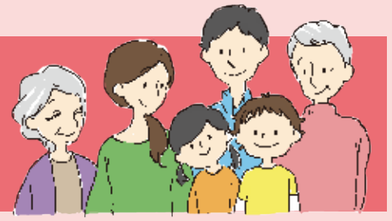
また、先進的な地域自治システム※1を展開しており、共働※2による個性豊かなまちづくりが進められています。

さらに、企業を始めとした様々な団体が、活発な社会貢献活動を実施し、学生や外国人市民など、多様なまちづくりの担い手を有しています。

※1　地域自治システム：都市内分権を推進し、地域住民の意見を市政に反映するとともに、地域の課題を地域住民自らが考え、解決するための仕組み

※2　共働：市民と行政が協力・連携すること。通常これを協働というが、本市ではそれに加え、共通する目的のために、それぞれの判断で、それぞれが別で活動することも含まれる

豊田市を取り巻く主な社会環境変化と課題



(1)超高齢社会の進展

2025年には豊田市の75歳以上の人口が2010年比で2倍以上に増加し、2040年にかけて高齢者人口が増加し続けると予測されています。

高齢者の急増による、医療・介護サービスの供給不足や社会保障費の増加、郊外型団地のオールドタウン化※1、山村地域の過疎化や集落機能の弱体化が危惧されます。

また、若年層の転入人口の減少や家族形成期世代の転出超過が続けば、地域の担い手不足や、地域の活力の低下、まちづくり活動の停滞が危惧されます。

(2)産業構造の大転換

自動車産業では、国内市場の縮小や国際競争の激化、CASE※2やMaaS※3の進展により、従来の産業構造が大きく変化する可能性があります。

特に中小企業においては、新たな技術や製品の開発等による企業力の強化が必須となっており、イノベーションや新たな挑戦への気運を醸成していくことが求められています。

(3)新型コロナウイルス感染症による「新たな日常」

新型コロナウイルス感染症が急速に拡大し、緊急事態宣言が発出されるなど、経済活動や日常生活が大きく制限されました。また、多分野でのデジタル化の進展などにより、市民の価値観やライフスタイルの多様化が加速しました。今後は、豊田市の「強み」と予測される「変化」を生かしながら、ポストコロナにおける「新たな日常」を構築していく必要があります。

(4)大規模自然災害・気候変動

豊田市は南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されているほか、活断層の存在が指摘されるなど、巨大地震や直下型地震の発生に備える必要があります。また、気候変動の進行に伴い、極端な高温や大雨によるリスクが更に増加すると予測されており、防災・減災対策を始めとした「適応策」と二酸化炭素排出抑制を始めとした「緩和策」の両面からの対応が求められています。

※1　郊外型団地のオールドタウン化：高度経済成長期に急速に整備された多くの郊外型団地においては、短期間に大量の住宅が供給され、同世代が一斉に入居したといった特徴を有しており、今日、居住者の高齢化・人口減少や住宅及び関連施設の老朽化等のいわゆるオールドタウン化の問題が生じている

※2　CASE：Connected,Autonomous,Shared&Services,Electric。自動車の次世代技術やサービスの新たな潮流を表す英語の頭文字4つをつなげた造語

※3　MaaS：Mobility-as-a-Service。自動運転やAI、オープンデータ等を掛け合わせ、従来型の交通・移動手段にシェアリングサービスも統合して次世代の交通を生み出すサービス

(5)持続可能な開発目標(SDGs)

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において、持続可能な開発目標(SDGｓ)を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。豊田市は2018年6月に持続可能な開発目標達成に向けた取組を先導的に進めていく自治体「SDGs 未来都市」として内閣府に選定されました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

●貧困をなくそう
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

●すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

●ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

●エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

●産業と技術革新の基盤を作ろう
強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

●住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

●気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

●陸の豊かさも守ろう
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

●パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

●飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

●質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

●安全な水とトイレを世界中に
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

●働きがいも経済成長も
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

●人や国の不平等をなくそう
各国内及び各国間の不平等を是正する

●つくる責任つかう責任
持続可能な生産消費形態を確保する

●海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

●平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

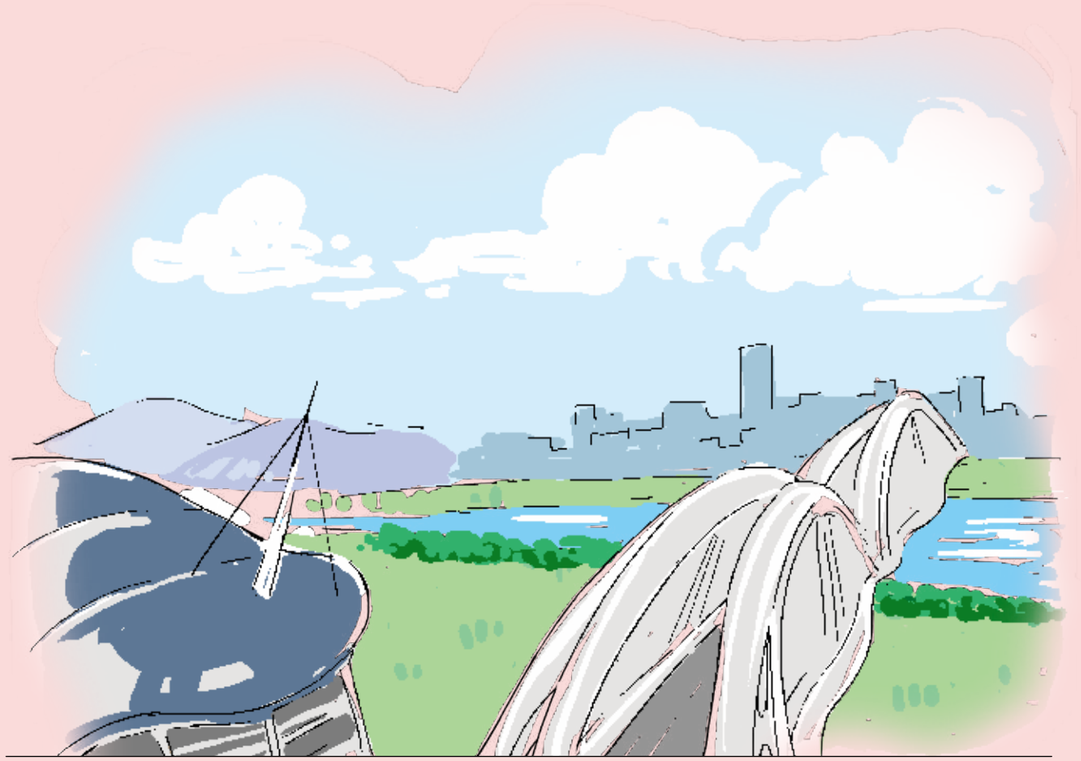
(6)公共施設等※4の老朽化

高度経済成長期における人口増加や行政需要の増大に合わせ、公共建築物やインフラ施設の整備を集中的に進めてきました。また、2005年の市町村合併により市域が拡大し、多くの施設等を保有しています。

2030年代から、これらの施設等が一斉に更新時期を迎えるため、建替えや大規模改修、修繕に係る経費が増大することが予測されます。厳しい財政状況の中、施設等を安全・安心に長期間使用するため、総合的かつ計画的な管理を進めていくことが求められています。

(7)厳しさを増す財政状況

国の税制改正による法人市民税の一部国税化の影響や地方交付税の合併特例の終了などにより、恒久的な歳入減は避けられません。また、歳出においては公共施設等の老朽化に伴う維持補修費や社会保障費の増大が見込まれるなど、厳しい財政状況が続くことになります。



※4 公共施設等：市庁舎、学校、こども園、市営住宅、交流館等の公共建築物、道路、橋りょう、河川、上下水道等のインフラ施設、その他の工作物のこと

まちづくりの基本的な考え方

(1)大きな社会の転換期におけるまちづくりの考え方

人口増加や経済成長を前提とした発想や手法、仕組みからの転換が必要です。

多様な「豊かさ」を生み出す社会へ

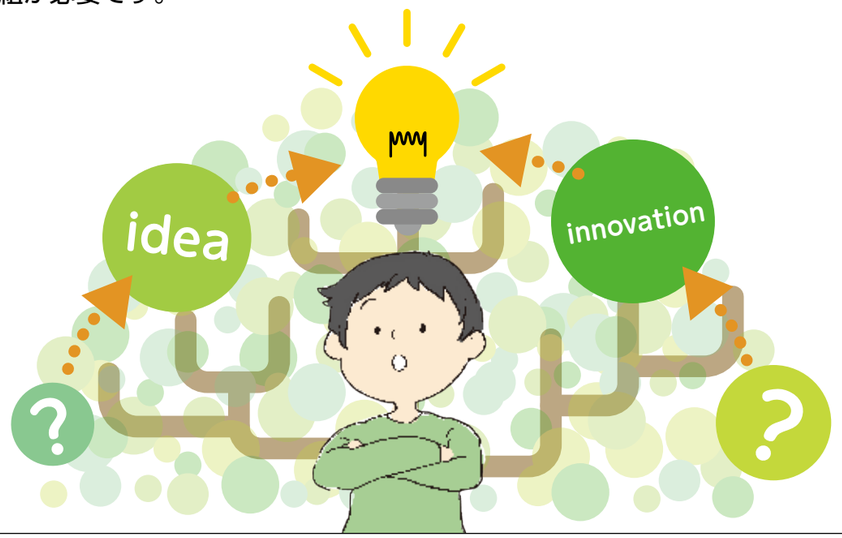
従来の「(ものを)所有する豊かさ」だけでなく、自らの暮らしや働き方を「創造する豊かさ」や社会とのつながりの中で様々な人が持つ価値観などを「共有する豊かさ」のもとで、一人ひとりの幸せの実現や満足度の向上が求められます。

視点 ～発想の転換～

- 「個の充足・完結」から「つながり・関係性の拡がり・深まり」重視へ
- 「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ
- 「足し算(積み重ね)」に「かけ算(組み合わせ)」思考を
- 「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」へ

(2)リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりの考え方

リニア中央新幹線の開業によりスーパーメガリージョン※1が形成されることで、名古屋市を中心とした経済圏域の優位性の高まりが期待される中、圏域における豊田市の役割を意識した取組が必要です。



※1 スーパー・メガリージョン：リニア中央新幹線により結ばれた三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ一体化した世界最大の広域経済圏

将来都市像

つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた

わたしたち豊田市民は、先人のたゆまぬ努力により培われてきた豊かな自然や歴史・文化、ものづくりなど多様な地域の資源を愛着や誇りを持って、守り、更に大きく育て、次代を担う子どもたちへつないでいくことで、安心と輝きに包まれた豊かな豊田市の未来をつくりだしていくことが大切であると考えます。

このような考えの下、人と人、人と地域、自然とのつながりを深め、認め合い、生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくりだし、暮らしを楽しむことができるまちをめざします。

こうした豊田市の未来の可能性を気づきや学びを通して実感し、一人ひとりが主役となって実現していく都市像として設定しました。

めざす姿

市 民　社会とのつながりの中で安心して自分らしく暮らす市民

多様なつながりの中で、互いを認め、学び合いながら、一人ひとりが個性や能力を発揮し、支え合う力が生かされる社会の実現をめざします。

〈めざす姿が達成された状態〉

●一人ひとりが個性や能力を伸ばし、自分らしく暮らしています。
●子どもたちは、社会の中で様々な才能を伸ばし、たくましく生き抜く力を育んでいます。
●地域に愛着と誇りを持ち、健康で生き生きと充実した生活を送っています。
●世代や分野を越えた様々なつながりや必要なセーフティネットがあり、楽しみながら自立して暮らしています。

地 域　魅力あふれる多様で個性豊かな地域

地域特性を生かしたまちづくりが主体的に取り組まれ、多様なライフスタイルを可能にする個性豊かな地域社会の実現をめざします。

〈めざす姿が達成された状態〉

●つながりや支え合いによって安全・安心に暮らせる地域が形成されています。
●自然や歴史・文化など、多様な地域資源が大切に受け継がれ、個性豊かな地域が形成されています。
●地域資源を生かした産業が地域内の経済の循環につながっています。
●都市部と山村部が地域特性を生かして活発に交流し、多様なライフスタイルが実現しています。

都 市　未来を先取る活力ある都市

自動車産業で培ってきたものづくりや多様な地域資源を最大限に生かして、新たな価値を創造し、世界に向けて発信する都市の実現をめざします。

〈めざす姿が達成された状態〉

●次世代モビリティなど未来に向けた社会課題の解決につながる研究開発や先進的な取組が盛んに展開され、世界中から注目を集めています。
●豊かな自然と調和し、人と環境にやさしいまちとして世界から認知されています。
●先人が培ってきた様々な知恵や技術に触れた経験等が暮らしや働くことの中で、新たな価値を創造しています。
●多文化が共生し、誰もが訪れ、活動しやすい、世界に開かれた環境が整っています。
●近隣の自治体と連携し、日本経済をけん引しています。

将来人口

2040年の将来人口を**420,000人**と想定します。

計画の推進に当たって

第8次豊田市総合計画では、「学び合い」の視点や、「WE LOVE とよた」の取組、「SDGs」の達成を施策の中で重視し、市民の皆様とともに進めていきます。

学び合い

「つながりや価値・可能性をつくりだすこと、行動すること」は、知ること、気づくこと、他を認めること、考えること、体験すること、他と共有することなどを通じて形づくられていくもので、そうした過程を総称して「学び合い」と表現します。

WE LOVE とよた

市民が豊田市の魅力に改めて気付き、愛情と誇りを持って行動し、魅力にあふれたまちを次の世代に引き継いでいくとともに、人や地域がつながり、多様な楽しみを分かち合っていく取組です。

SDGs 未来都市

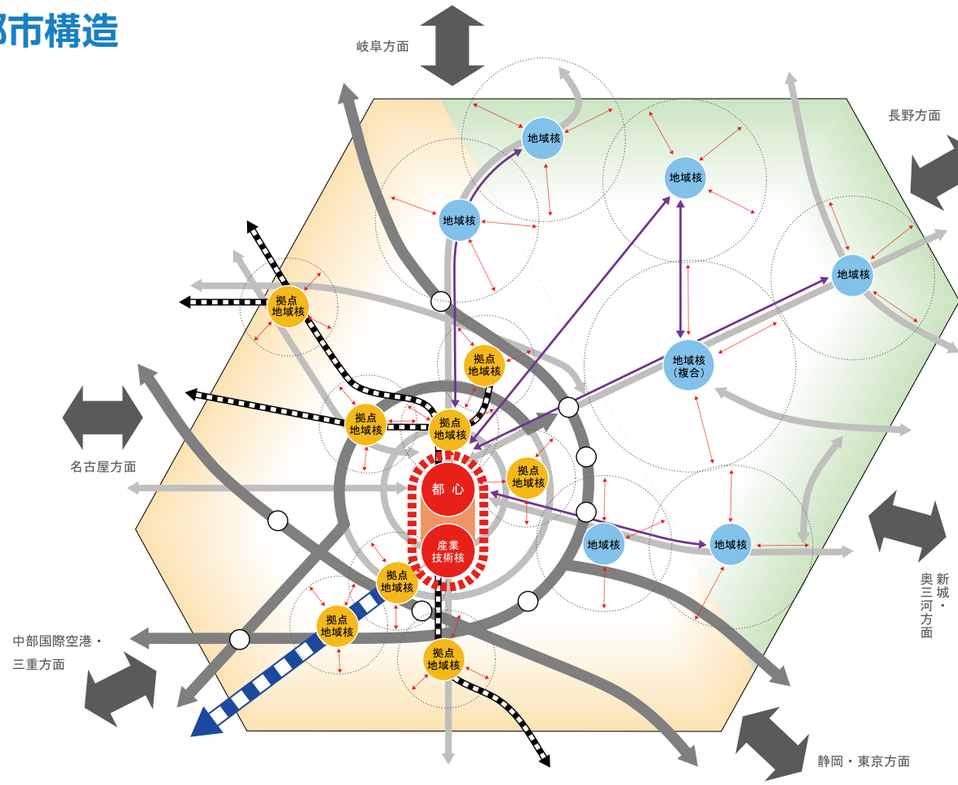
SDGsは、国際社会全体の普遍的な目標であり、エネルギー・モビリティ・ウエルネスを優先的に取り上げ、多様な主体が分野の垣根を越えて「つながる」まちづくりを進めることで、SDGs達成を更に加速していきます。

土地利用構想

産業技術の中枢拠点にふさわしい「都市的土地利用」と、市域の約70％を占める森林を始めとした「自然的土地利用」との調和を基本とします。

その上で、広大な市域の効率的な都市経営と地域資源を次代につなぐため、「選択と集中」により「核」と「ネットワーク」を強化し、多核ネットワーク型都市をめざします。

都市構造



多核ネットワーク型都市構造の中心となる「都心」と、世界をリードする産業技術の中枢となる「産業技術核」の、二つの核の連携により、魅力を発信し続ける都市空間の形成を図ります。

都市構造軸である鉄道の機能強化を図り、駅周辺や沿線への都市機能や居住の誘導を図ります。

- 鉄道等
- 基幹バス
- 地域交通
- 高規格幹線道路・地域高規格道路
- その他主要道路
- インターチェンジ（スマートインターチェンジ含む）

核の方針

地域の特性に応じた都市機能や生活機能等を集積・集約する都市拠点を、多核ネットワーク型都市構造の「核」に設定します。

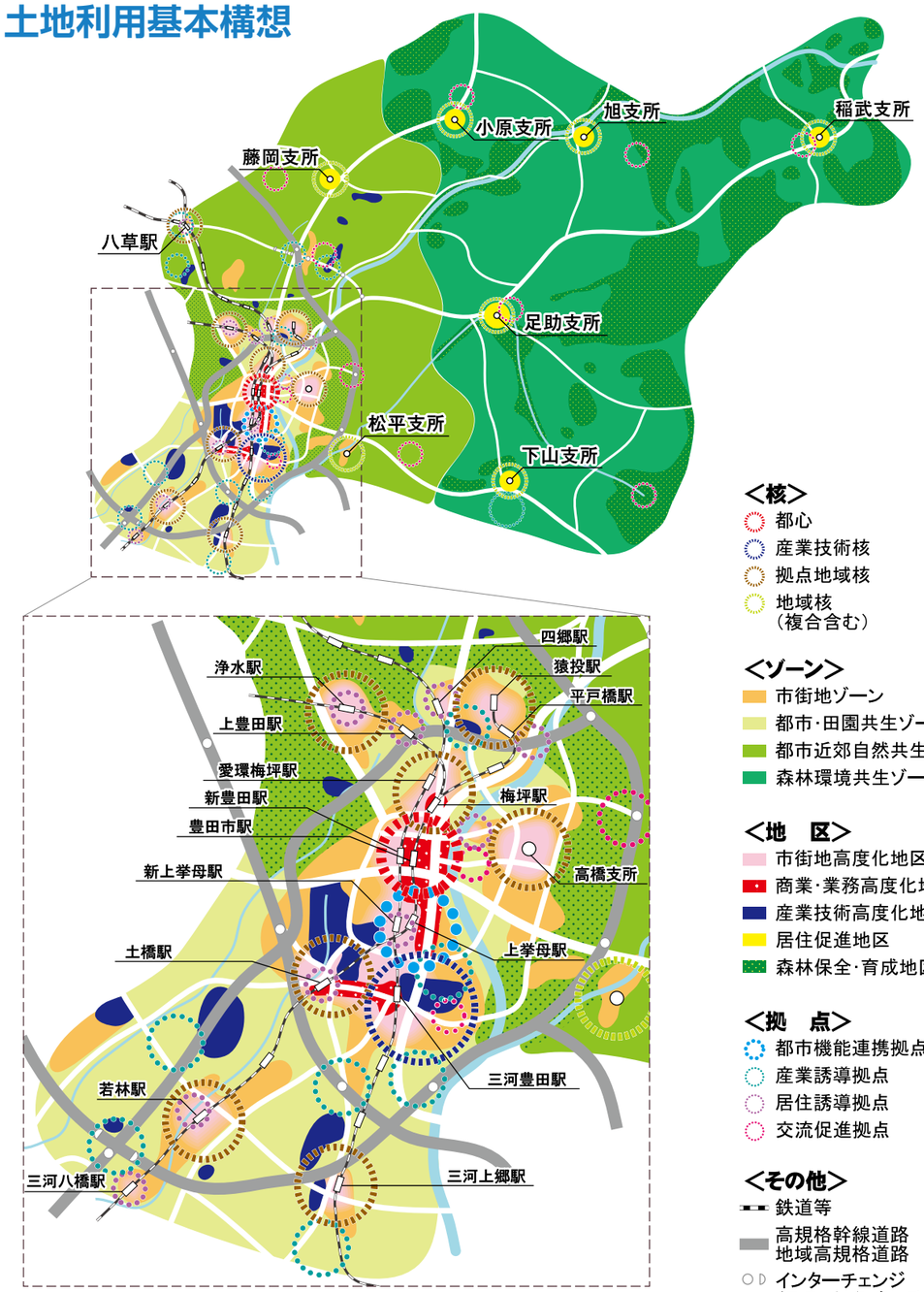
ネットワークの方針

核と核の相互連携を図るために、公共交通や道路による「ネットワーク」を形成します。

ゾーンの方針

市域において土地利用に応じた区域を、都市基盤の整備状況及び施設の立地状況を踏まえ、適切な土地利用の誘導を図るため、4つの「ゾーン」に設定します。

土地利用基本構想



<核>
- 都心
- 産業技術核
- 拠点地域核
- 地域核（複合含む）

<ゾーン>
- 市街地ゾーン
- 都市･田園共生ゾーン
- 都市近郊自然共生ゾーン
- 森林環境共生ゾーン

<地　区>
- 市街地高度化地区
- 商業･業務高度化地区
- 産業技術高度化地区
- 居住促進地区
- 森林保全･育成地区

<拠　点>
- 都市機能連携拠点
- 産業誘導拠点
- 居住誘導拠点
- 交流促進拠点

<その他>
- 鉄道等
- 高規格幹線道路 地域高規格道路
- インターチェンジ（スマートインターチェンジ含む）
- その他主要道路（国道）
- その他主要道路（県･市道）
- 主な河川
- 緑の外環（保全区域）（緑を保全･活用又は創出することを配慮する区域のこと）

地区の方針

ゾーンの方針を踏まえ、都市機能の集約状況等からきめ細やかな土地利用の誘導を図るため、5つの「地区」を設定します。

拠点の方針

ゾーンや地区の方針を踏まえ、都市機能の集約状況等から重点的に都市機能の誘導を図るため、4つの「拠点」を設定します。

計画の構成と内容

豊田市のミライを作っていく具体的な取組を示しているのが、後期実践計画です。
皆様と一緒によりよい豊田市のミライをめざします。

基本構想（目標：2040年）

将来都市像

つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた

めざす姿

社会とのつながりの中で安心して自分らしく暮らす市民

多様なつながりの中で、互いを認め、学び合いながら、一人ひとりが個性や能力を発揮し、支え合う力が生かされる社会の実現をめざします。

魅力あふれる多様で個性豊かな地域

地域特性を生かしたまちづくりが主体的に取り組まれ、多様なライフスタイルを可能にする個性豊かな地域社会の実現をめざします。

未来を先取る活力ある都市

自動車産業で培ってきたものづくりや多様な地域資源を最大限に生かして、新たな価値を創造し、世界に向けて発信する都市の実現をめざします。

後期実践計画（2021年度～2024年度）

【重点施策】
特に力を入れて取り組むこと

重点施策（1）
超高齢社会への適応

施策の柱①
生涯活躍の推進

施策の柱②
安心して暮らせる地域包括支援体制の強化

重点施策（2）
「ひと」と「しごと」が集まるミライへの投資

施策の柱①
産業拠点としての機能強化

施策の柱②
住み続けたいまちづくり

重点施策（3）
まちの課題解決力の強化

施策の柱①
多様な「つながり」による豊かな暮らしの創出

施策の柱②
持続可能な地域経営

【基本施策】
着実に取り組むこと

Ⅰ 子ども・子育て
安心して子育てができるまちの実現

Ⅱ 生涯学習
生涯を通じて学び・育ち、
誰もが活躍できるまちの実現

Ⅲ 健康・福祉
誰もが健やかに安心して暮らせる
まちの実現

Ⅳ 安全・安心
市民の生命・財産が守られ、
安全・安心に暮らせるまちの実現

Ⅴ 産業・観光・交流
多様な資源が生かされ、
未来に挑戦する活力のあるまちの実現

Ⅵ 環境
人と自然が共生する
環境にやさしいまちの実現

Ⅶ 都市整備
生活と産業を支える
快適で質の高いまちの実現

Ⅷ 地域経営
市民力・地域力・企業力・行政力が
発揮される自立した地域社会の実現

重点施策 1

超高齢社会への適応

めざす姿

住み慣れた地域の中で、年齢や身体の状態、家庭環境等にかかわらず、社会と関わりを持ちながら、誰もが安心して、健やかに、自分らしく暮らしている。（幸福寿命を全うできるまち）

施策の背景

① 超高齢社会の進展

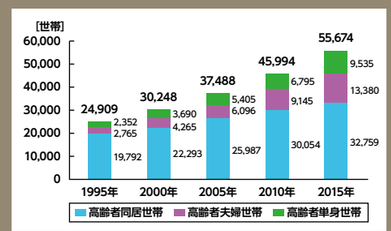
●今後、後期高齢者の急増や高齢化率の上昇が見込まれています。

●高齢化の進展に伴い、高齢者単身世帯や要支援・要介護認定者、認知症の人も増加傾向にあります。

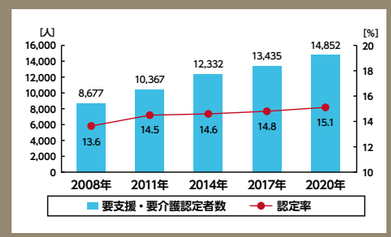
●新型コロナウイルス感染症の影響で高齢者の外出が抑制されたことで、フレイル※1の進行が危惧されています。

●また、退職後等の生活において、多様な価値観や考え方を持つ高齢者が増えています。

●こうした状況を踏まえ、豊田市では、誰もが幸福感を感じて自分らしく生活できる「幸福寿命」を全うできるまちをめざしています。



■ 豊田市の高齢者がいる世帯数の推移
資料:総務省統計局 国勢調査



■ 豊田市の要支援･要介護認定者数の推移
資料:豊田市調べ(各年9月末時点)

※1 フレイル：加齢に伴い、やせ、転倒、認知機能低下、閉じこもりが進む状態

② 医療･介護環境

●高齢者の急増に伴い､医療･介護需要が高まっています。

●また、住み慣れた地域や自宅で自分らしく暮らし続けられるよう、在宅医療・介護の提供体制の構築が求められています。

●一方で、生産年齢人口の減少などにより、介護に関わる人材の確保はますます厳しくなっています。

■ お元気ですかボランティアによる訪問

■ 介護職員と施設利用者

③ 包括的支援体制

●育児・介護の同時負担を始め、8050問題※2、認知症や障がい、生活困窮、ひきこもり、就職氷河期世代※3、虐待など、家庭や地域が抱える複雑な問題を支援につなげる取組を地域に定着させる必要があります。

●障がい者、外国人、高齢者、子ども等、それぞれの状況の違いから、相互理解及び意思疎通に隔たりが生じており、社会との関わりを妨げる要因となっています。

■ 包括的相談窓口

■ 地域の防災訓練における
コミュニケーション支援ボードの活用

※2 8050問題：80歳代の親と、50歳代のひきこもり状態で独身・無職の子が同居している問題
※3 就職氷河期世代：おおむね1993年から2004年に学校卒業期を迎え、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代

施策の柱 1 生涯活躍の推進

●身近な地域で誰もが楽しみながら気軽に参加できる健康づくりと介護予防を推進します。
●その中で、新しい生活様式に適応する健康づくりと介護予防の在り方を検討します。
●高齢期においても活躍できる機会や場の充実に加え、高齢者のニーズと活躍の場をつなぐマッチング機能を強化します。

主な実践計画事業

■SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）※4を活用した社会参加型介護予防事業
■きらきらウエルネス地域推進事業
■地域スポーツ支援事業
■高齢者の活躍支援事業
■シルバー人材センター就業創出事業
■就労支援事業
■（仮称）地域資源マップ整備事業

■ 介護予防の取組

■ シルバー人材センター就業創出事業

※4 SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）：民間の活力を社会的課題の解決に活用するため、民間資金を呼び込み成果報酬型の委託事業を実施する取組（略称：SIB）

施策の柱 2 安心して暮らせる地域包括支援体制の強化

●在宅を起点とした医療・介護環境を計画的に確保します。
●介護に関わる方々が働きやすい職場づくりやモチベーションアップに取り組みます。
●課題を抱える住民に対して、継続的な伴走支援と多機関の共働による支援体制を構築します。
●障がい者、外国人、高齢者、子ども等の相互理解の促進及び意思疎通の円滑化を推進します。

主な実践計画事業

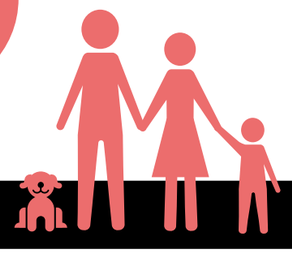
■在宅医療・福祉連携推進事業
■介護人材支援事業
■介護施設整備事業
■重層的支援体制推進事業
■総合的な認知症施策推進事業（支援チーム、早期発見と社会参加）
■成年後見制度利用促進事業
■豊田地域医療センター再整備事業
■先進技術を活用した地域リハビリテーションの推進
■相互理解の促進と意思疎通の円滑化の推進事業

■ 地域包括支援体制

■ 豊田地域医療センター

重点施策 2

「ひと」と「しごと」が集まるミライへの投資



めざす姿

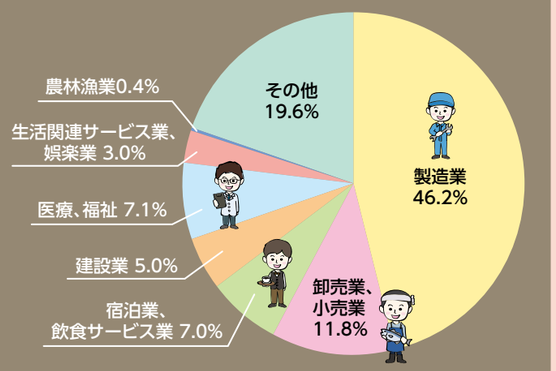
次代につながる産業の拠点として、活発な企業活動や先進的な取組が展開され、子育て世代に選ばれるまちとして、ミライに向けた活力を地域に生み出している。

施策の背景

① 産業拠点としての機能強化

●自動車産業では、生産機能から研究開発機能への転換、部品等の共通化・現地生産化、先進技術分野への事業領域の拡大等の動きが見られます。

●また、新型コロナウイルス感染症を契機に、社会全体でデジタルトランスフォーメーション(DX)※1の実現に向けた取組が加速していく見込みです。



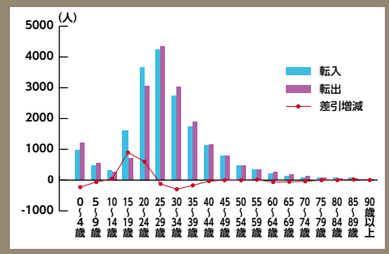
■ 従業者数構成比(産業大分類別)
資料:経済センサス活動調査(2016年)

② 人口動態の状況

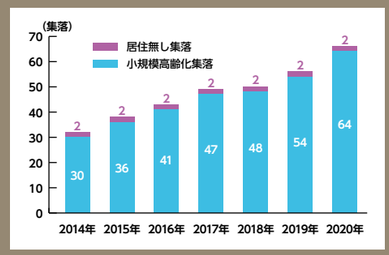
●15歳から24歳の就職期では市内への転入が多い一方、25歳から39歳の家族形成期では、県内他市町村への転出が多い状況となっています。

●また、少子化が依然として進んでいます。

●山村地域では、人口減少等により、集落の維持に課題を抱えています。



■ 年齢別異動者数 資料:豊田市の人口(2018年版)



■ 小規模高齢化集落の推移
※人口100人未満、65歳以上の高齢者比率50%以上の集落

③ 住み続けたいまちの魅力・機会

●豊田市は、様々な出身の人々が集住、共存しており、地域が持つ歴史や文化が市民に十分に共有されていない状況にあります。

●こども園等の待機児童ゼロやGIGAスクール構想の実現等、子育てしやすい環境の更なる整備や能力に応じた教育機会の確保が求められています。

●リニア中央新幹線の開業を予定していることを受け、名古屋駅へのアクセス機能の強化が求められています。

●新型コロナウイルス感染症の影響により、山村地域への移住・定住の相談数が増加しています。

■ 子育て支援

■ いなか暮らしの相談

※1 デジタルトランスフォーメーション(DX):企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること

施策の柱 1 産業拠点としての機能強化

●産業拠点としての生産・研究機能等の一層の高度化を図ります。
●市内外からの企業のスタートアップの誘発・誘引の促進やオープンイノベーション等の機会の提供により、産業構造の多角化を図ります。
●市内中小企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)に係る取組を促進します。

主な実践計画事業

■企業立地奨励事業
■オープンイノベーション推進事業
■スタートアップ支援事業
■産業用地整備事業
■DX促進事業

■ 企業立地奨励事業活用事例

■ ハッカソン「HACK the TOYOTA」

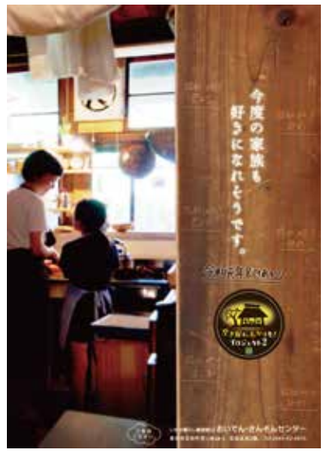
施策の柱 2 住み続けたいまちづくり

●民間開発の誘導や既存ストックの活用により、住宅・宅地を供給します。
●山村地域において、可住地を発掘するとともに、人と地域がつながる移住・定住を促進します。
●子育て世帯への切れ目ない支援と、能力に応じた教育機会の確保を進めます。
●歴史、文化、自然などの本市の価値や魅力に市民が気付き、共感が生まれ、まちへの愛着や誇りにつながる取組を進めます。
●鉄道等の公共交通ネットワークのアクセス性の向上を着実に推進します。

主な実践計画事業

■市街化調整区域内地区計画の活用
■住まい相談総合支援事業
■定住促進プロモーション事業
■空き家・空き地情報バンク事業
■就労支援事業
■働き方改革推進事業
■ICT活用・整備推進事業
■いなか暮らしコーディネート事業
■博物館整備事業

■ 学習用タブレットを使った授業



■「空き家にあかりを!プロジェクト」ポスター

重点施策 3

まちの課題解決力の強化

めざす姿

人と人、人と地域、企業と行政など、多様な主体がそれぞれの強みを生かし、つながり、支え合うことで、効率的かつ効果的に様々な地域課題が解決されている。

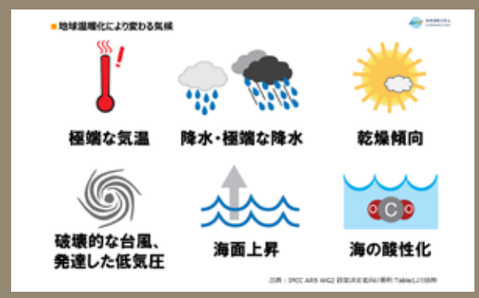
施策の背景

① 前例の無い時代の転換点の到来

●超高齢社会の進展、産業構造の大転換、新型コロナウイルス感染症の影響、気候変動、厳しさを増す財政状況等、豊田市を取り巻く社会環境は劇的に変化しています。

●今後は、激しい社会環境変化に柔軟に適応できる強くしなやかなまちへの転換を図っていく必要があります。

■ コロナ禍の通勤・通学風景



■ 地球温暖化により変わる気候（地球規模）

② 多様で充実した担い手との「つながり」

●豊田市は、自治区、企業、市民活動団体等、多様なまちづくりの担い手を有しています。

●また、おいでん・さんそんセンター※1や豊田市つながる社会実証推進協議会※2、地域学校共働本部※3、コミュニティ・スクール※4等、多様な人材等の地域資源がつながるプラットフォームが展開されています。

●今後は、こうした仕組みを活用し、効率的かつ効果的な地域課題の解決を図っていく必要があります。

■ 地域会議 住民との意見交換会

■ 交流館と地域学校共働本部の連携事業

■ とよたSDGsパートナー

■ おいでん・さんそんセンター

③ 情報化の進展

●国は「Society5.0※5」の実現をめざしています。

●また、2021年度中にデジタル化を一元的に担うデジタル庁の発足をめざしており、行政分野でのデジタル化の急速な進展が見込まれます。

※1 おいでん・さんそんセンター：都市と山村をつなぎ豊かで持続可能な地域づくりに向けた中間支援機能
※2 豊田市つながる社会実証推進協議会：企業や大学を始めとした団体とともに、これからの持続可能な都市づくりに向けて、先進技術の開発や実証を展開する母体
※3 地域学校共働本部：地域住民や保護者等がボランティアとして、授業や部活動、学校行事の支援、登下校の見守りなど、学校の様々な教育活動を支援する組織
※4 コミュニティ・スクール：中学校区の単位で、学校と地域がめざす子ども像や9年間を見通した教育活動を共有し、学校間の連携及び地域ぐるみの教育を効果的に実施するための仕組み
※5 Society5.0：狩猟社会（society1.0）、農耕社会（2.0）、工業社会（3.0）、情報社会（4.0）に続く、新たな社会をめざすもので、政府が策定した第5期科学技術基本計画にて初めて提唱された概念

施策の柱 1 多様な「つながり」による豊かな暮らしの創出

●多様な担い手同士をつなぐプラットフォームにより、効率的かつ効果的な地域課題の解決を図ります。
●共働によるまちづくりの更なる推進と都市内分権の成熟をめざします。

主な実践計画事業

- ■次世代社会システム推進事業
- ■SDGs未来都市推進事業
- ■いなか暮らしコーディネート事業
- ■交流コーディネート事業
- ■地域学校共働本部推進事業
- ■コミュニティ・スクール推進事業
- ■交流館と地域学校共働本部の連携強化

■ 外部給電体験

■ 交流コーディネート

施策の柱 2 持続可能な地域経営

●新型コロナウイルス感染症の対応で培った経験や、気候変動及び国土強靱化の視点を踏まえ、市民の安全・安心の確保を進めます。
●公共施設等総合管理計画に基づいた総合的かつ計画的な施設管理を進めます。
●事業や事務の最適化を進めるとともに、ICTの活用による新たな時代に適応した行政サービスのスマート化と質の向上を図ります。

主な実践計画事業

- ■市役所のデジタル化・スマート化
- ■次世代通信網・データの活用の推進
- ■公共施設等の総合的な管理の推進
- ■事業・事務の最適化の推進
- ■気候変動適応策推進事業

基本施策 Ⅰ 子ども・子育て

安心して子育てができるまちの実現

1 子育て

施策名

(1) 子どもの権利の保障
(2) 安心して子どもを生み育てられる環境の充実
(3) 安心して子どもを預けられる環境の整備

主な実践計画事業

- ●子どもの権利啓発事業
- ●児童虐待防止教育推進事業
- ●とよた急病・子育てコール24運営事業
- ●多胎パパママ教室
- ●公立こども園のICT活用事業
- ●放課後児童クラブ事業

基本施策 Ⅱ 生涯学習

生涯を通じて学び・育ち、
誰もが活躍できるまちの実現

1 学び・育ち

施策名

(1) 生き抜く力を育む学校教育の推進
(2) 安全・安心で快適に学べる教育環境の充実
(3) 地域による次世代人材の育成の促進
(4) まちへの誇りや愛着につながるものづくり学習の推進
(5) 高齢者が活躍できる環境の充実
(6) 女性が活躍できる環境の充実

2 スポーツ

施策名

(1) スポーツ資源を生かした活力ある社会の実現

3 歴史・文化

博物館イメージ図

施策名

(1) 歴史や文化財の継承と魅力の発信
(2) 文化芸術を生かしたまちの魅力づくりの推進

主な実践計画事業

- ●きめ細かな教育推進事業
- ●ICT 活用・整備推進事業
- ●高齢者の活躍支援事業
- ●女性のライフプラン・キャリア形成支援事業
- ●スポーツボランティアの活動促進事業
- ●文化ゾーン基盤整備事業

基本施策 Ⅲ 健康・福祉

誰もが健やかに安心して暮らせるまちの実現

1 健康

施策名

（1）誰もが健康づくりを継続できる環境の充実
（2）健康危機への対応力の強化

2 医療

施策名

（1）必要な時に受診できる医療提供体制の確保

3 福祉

施策名

（1）高齢者が安心して生活できる支援体制の充実
（2）障がい者が地域社会で共生できる環境の整備
（3）生活困窮者が適切な支援を受けられる体制の確保

主な実践計画事業

- ●元気アップ事業
- ●在宅医療・福祉連携推進事業
- ●豊田地域医療センター再整備事業
- ●介護人材支援事業
- ●障がい者日中活動場所確保事業
- ●子どもの学習・生活支援事業

基本施策 Ⅳ 安全・安心

市民の生命・財産が守られ、
安全・安心に暮らせるまちの実現

1 防災・減災、国土強靭化

施策名

（1）自助・共助・公助による災害対策の充実
（2）防災・減災につながる都市機能の強化

2 消防

施策名

（1）自助・共助・公助による消防対応力の強化

3 防犯

施策名

（1）地域ぐるみの防犯体制の強化

4 交通安全

施策名

（1）交通安全意識の向上と安全な道路交通環境の実現

主な実践計画事業

- ●自助意識普及啓発事業
- ●住宅耐震化促進事業
- ●準用河川長田川河川改修事業
- ●救急救命士の養成・活躍推進事業
- ●子どもの防犯教室
- ●高齢者交通安全防犯世帯訪問事業

基本施策 Ⅴ 産業・観光・交流

多様な資源が生かされ、未来に挑戦する
活力のあるまちの実現

1 農業

施策名

（1）地域特性に応じた産業型農業の推進
（2）地域が支える“食と農”の推進

2 森林・林業

施策名

（1）100年先を見据えた安全・安心の森づくりの推進
（2）地域材の生産・流通・利用の推進

3 ものづくり産業

施策名

（1）地域産業の持続的発展に向けた企業力の強化
（2）新たな産業を創造する基盤の構築

4 商業・サービス業

施策名

（1）中心市街地商業のにぎわいの創出
（2）地域特性に応じた商業環境の整備

5 観光・交流

施策名

（1）多様な地域資源を生かした観光産業の振興
（2）地域資源を生かしたまちづくりの推進

6 労働

施策名

（1）多様な働き方で多様な人材が活躍する環境の整備

主な実践計画事業

- ●農商工連携・6次産業化推進事業
- ●地域材利用促進事業
- ●企業立地奨励事業
- ●ものづくりミライ塾事業
- ●観光マーケティング推進事業
- ●働き方改革推進事業

基本施策 Ⅵ 環境

人と自然が共生する
環境にやさしいまちの実現

1 脱炭素社会

施策名

（1）脱炭素の実現に向けた未来都市の推進

2 循環型社会

施策名

（1）廃棄物の減量化・資源化と適正処理の推進

3 自然共生社会

施策名

（1）暮らしを豊かにする生物多様性の保全

4 環境配慮行動

施策名

（1）持続可能な社会を支える環境配慮行動の促進

主な実践計画事業

- ●スマートハウス普及促進事業
- ●気候変動適応策推進事業
- ●渡刈クリーンセンター大規模修繕事業
- ●航空写真を解析した不法投棄等調査・指導事業
- ●ラムサール条約湿地保全活用事業
- ●SDGsポイント事業

基本施策 Ⅶ

都市整備

生活と産業を支える快適で質の高いまちの実現

1 市街地整備

施策名

(1) にぎわいのある魅力的な都心の形成
(2) 利便性の高い市街地の形成
(3) 多様なニーズに応える市街地定住の促進
(4) 憩いとうるおいをもたらす緑の空間の創出

2 交通

施策名

(1) 生活・産業を支える道路ネットワークの形成
(2) 利便性が高く持続可能な公共交通ネットワークの形成
(3) 人と環境にやさしく安全で快適な交通まちづくりの推進

3 上下水道

施策名

(1) 安全・安心な水道水の安定供給の実現
(2) 汚水の適正な処理による快適な生活環境の実現

主な実践計画事業

- ●豊田市駅整備事業
- ●新市街地整備事業
- ●中央公園第二期整備事業
- ●高橋細谷線整備事業
- ●基幹バス運行事業
- ●下水道整備事業

基本施策 Ⅷ

地域経営

市民力・地域力・企業力・行政力が
発揮される自立した地域社会の実現

1 共働

施策名

(1) 市民力・地域力・企業力を生かした共働のまちづくりの推進

2 国際化

施策名

(1) 多様な市民が活躍できる国際まちづくりの推進

3 山村振興

施策名

(1) 自立とつながりによる山村地域等の振興

4 行政経営

施策名

(1) 未来を見据えた持続可能な行財政運営
(2) 公共施設等の適切な管理の推進
(3) 先進技術等を活用した地域課題解決の推進
(4) 共働による地域情報化の推進
(5) 戦略的な広域連携の推進

主な実践計画事業

- ●わくわく事業、地域予算提案事業
- ●市民活躍応援事業
- ●国際理解・啓発事業
- ●足助地域核エリア再生事業
- ●SDGs未来都市推進事業
- ●市役所のデジタル化・スマート化

新型コロナウイルス感染症を克服した新しい社会の構築に向けて

新型コロナウイルス感染症により、日々の生活や事業活動が大きく制限されるなど、豊田市においても甚大な影響が及ぼされているとともに、市民生活や産業分野においては、パラダイムシフト※1と呼ばれるような劇的な変化が起きています。こうした状況の中、多様で充実した担い手を始めとした豊田市の持つ「強み」と、今後豊田市で予測される「変化」を生かしながら、持続可能でやさしい社会の実現をめざします。

ウィズコロナ（短期）

●市民の安全・安心を第一に考え、行政が主体となって感染症対策や市民生活及び事業活動における各種相談・支援に取り組むとともに、医療機関等と連携しながら健康づくりの推進を図ります。

ポストコロナ（中長期）

●新型コロナウイルス感染症の拡大防止を契機とした多分野でのデジタル化に対応し、企業や大学を始めとした多様な主体と連携しながら取組を進めます。

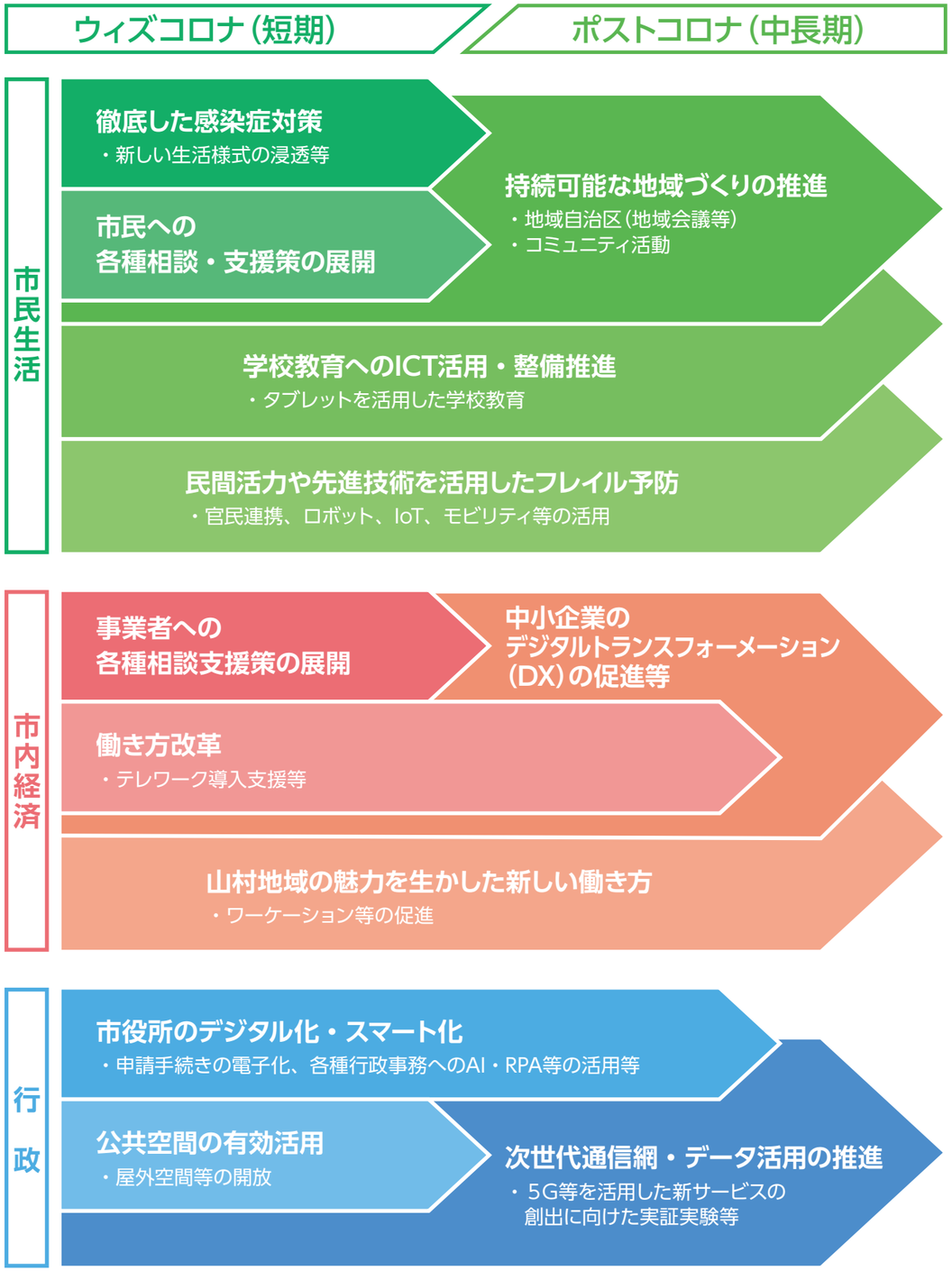
●また、デジタル化の推進だけでなく、対面でのふれあいや現場の臨場感等、各分野が持つアナログの良さを生かしていくことで、豊田市ならではのデジタルとアナログの融合による新しい社会の構築をめざします。

ドライブスルー方式によるPCR 検査

学習用タブレットの活用の様子

※1　パラダイムシフト：その時代や分野において、当然のことと考えられていた認識や思想、価値観などが劇的に変化すること

関連する主な取組



つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた

第8次 豊田市総合計画

基本構想・後期実践計画 概要版

2021年3月 発行

発行／豊田市

編集／豊田市 企画政策部 企画課

UD FONT by MORISAWA
ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

●この冊子は再生紙を使用しています